



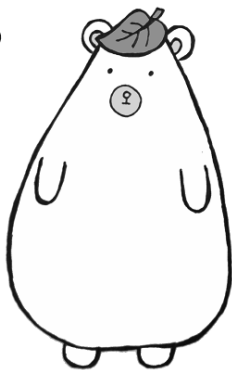
札幌市豊平区イメージキャラクター「ころん・めーたん」

## 第63回北海道医療ソーシャルワーク学会

テーマ「多様化する地域社会におけるソーシャルワーク実践」



(さっぽろ羊ヶ丘展望台)



主 催	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会
開催主管	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会中央A支部
日 程	2020年6月20日(土)～21日(日)
会 場	札幌ビューホテル大通公園

学 会 長	松原 俊輔 (介護老人保健施設リラコート愛全)
運営委員長	高橋 奏絵 (札幌しらかば台病院)
運営副委員長	横田 法律 (西岡病院)
	岡崎 史典 (社会医療法人 恵和会 札幌市南区第1地域包括支援センター)

# テーマ「多様化する地域社会におけるソーシャルワーク実践」

国は、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えてつながることを目指し、地域共生社会の実現に向けて様々な取り組みを進めている。我々医療ソーシャルワーカーに対しても、ここ十年の間で、診療報酬制度、就労・就学支援、在宅医療介護連携推進事業、地域包括ケアシステムへの参画など期待が高まっているとともに、ソーシャルワーク実践の位置づけも進んできている。

しかしながら、日々の実践の中で地域に目を向けると、ひと昔前の「支えあい」「絆」が薄まり、社会的孤立が生まれ、その結果、社会的な抑圧を受けた方が存在している。「虐待」「依存症」「身寄りがない」など、様々な支援課題を抱えたまま医療に繋がる方も少なくない。

このような地域社会の中で、我々医療ソーシャルワーカーは、保健医療分野における相談支援の専門職として、入退院支援を中心に、地域の多職種連携の中核となり、日々実践を行っており、地域の連携推進活動にも参画をしている。しかしながら、その実践は十分とは言えず、所属機関や地域の関係職種、地域住民らとともに、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに更に目を向けるべきではないのか。そして、「ソーシャルインクルージョン」に向けた自らの実践を確認し、今後の果たすべき役割を今一度考える時期がきているのではないのか。本学会のテーマを「多様化する地域社会におけるソーシャルワーク実践」とした。多様化する地域社会をソーシャルワークの視点で見て、我々に何ができるのか、考える契機となる学会としたい。

## 【第1日目】 6月20日(土)

10:00 11:20	11:40 12:30	13:00 14:00	14:30 15:00	15:00 16:45	17:00 18:30	18:30 19:00	19:00 20:30
ミニレクチャー ワークショップ	ランチョン セミナー	総会	開会式	基調講演	招待講演	ウェルカム ドリンク	懇親会

## 【第2日目】 6月21日(日)

09:00 10:30	10:45 12:00	12:00 12:20
演題発表	特別講演	閉会式

## 【後 援】

北海道、札幌市、北海道医師会、札幌市医師会、北海道健康づくり財団、日本医療社会福祉協会、北海道看護協会、北海道理学療法士会、北海道作業療法士会、北海道言語聴覚士会、北海道社会福祉士会、北海道精神保健福祉士協会、北海道老人保健施設協議会、北海道社会福祉協議会、北海道精神障害者家族連合会、北海道認知症の人を支える家族の会、北海道地域包括・在宅介護支援センター協議会、北海道介護支援専門員協会、北海道訪問看護ステーション連絡協議会、札幌市社会福祉協議会、札幌市介護支援専門員連絡協議会、北海道難病連、北海道ソーシャルワーカー協会、北海道介護福祉士会（順不同）



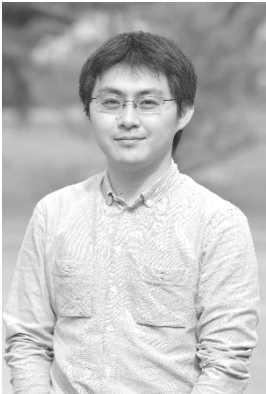
## 基調講演

－6月20日（土）15：00～16：45

【講師】 藤田 孝典 / ほっとプラス代表理事、社会福祉士（聖学院大学客員准教授）

「日本の貧困と格差に対抗する福祉実践 - ソーシャルアクション時代に向けて - 」

【座長】 巻 康弘（北海道医療大学准教授）



### 藤田 孝典 / ふじた たかのり

首都圏で生活困窮者支援を行うソーシャルワーカー。聖学院大学人間福祉学部客員准教授。NPO法人ほっとプラス理事。反貧困ネットワーク埼玉代表。ブラック企業対策プロジェクト共同代表。厚生労働省社会保障審議会特別部会委員（2012年）。著書に『中高年ひきこもり』（扶桑社2019）『貧困クライシス』（毎日新聞出版2017）『続・下流老人』『下流老人』（朝日新聞出版 2015・2016）『貧困世代』（講談社 2016）など多数。

### 【講演内容】

日本では貧困や格差が広がり続けています。医療ソーシャルワーカーの現場でも相談や支援を介して、貧困と格差の深刻さに気づく場面が増えているのではないかと思います。現状で高齢者の貧困、子どもの貧困、ワーキングプア（稼働年齢層の貧困）はなぜ拡大し、今後どのように社会は変貌していくのか、一緒に学んでいきたいと思ひます。

また、その貧困や格差が社会構造から発生する様相が強いため、ソーシャルアクションを展開した是正もソーシャルワーカーに求められるようになってきました。専門職養成カリキュラムではソーシャルアクション、社会運動に触れられる機会が増え、そのような人材養成が急務となっています。国際ソーシャルワーク定義でもソーシャルワーカーに求められる役割として、社会変革、社会開発、社会的結束が重視され、ソーシャルワークの潮流が変わっています。未来のソーシャルワークに向けた展望を考える機会にしたいと思ひます。

## 特別講演

－6月21日（日）10：45～12：00

【講師】 小澤 輝真 / 北洋建設株式会社（札幌市東区）代表取締役

「どんな人でも信じ抜く～人の可能性を引き出す力～」

【座長】 木田 智也（さっぽろみなみホームケアクリニック）



### 小澤 輝真 / おざわ てるまさ

学術修士、皇室より東久邇宮文化褒章受章、東久邇宮記念賞受賞、法務省より法務大臣感謝賞拝受、法務省より更生保護委員長感謝状拝受、札幌市より安全で安心なまちづくり表彰、喜茂別町よりふるさと納税感謝状拝受、（公）社会貢献支援財団より社会貢献者表彰、（独）高齢障害求職者雇用支援機構より感謝状拝受、（公）北海道暴力追放センターより感謝状拝受、全国防犯CSR推進会議より防犯CSR実践企業表彰、中央労働災害防止協会より無災害記録賞金賞受賞、ホワイト企業大賞企画委員会より社会復帰支援大賞受賞、長沼中央小学校より感謝状拝受、北海道警察本部より感謝状拝受、（一社）作田明記念財団より作田明最優秀賞拝受



## 招待講演

－6月20日（土）17：00～18：30

「北海道におけるソーシャルワーク実践で必要なこと」

【座長】 岡村 紀宏（西岡病院）

－実践評価における先駆的な取り組み（仮）

静岡県医療ソーシャルワーカー協会  
会長 中村 敬

－身寄りのいない事例についての先駆的な取り組み（仮）

愛知県医療ソーシャルワーカー協会  
副会長 野田 智子

「パネルディスカッション」

日本医療社会福祉協会 会長 早坂 由美子  
静岡県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中村 敬  
愛知県医療ソーシャルワーカー協会 副会長 野田 智子  
北海道医療ソーシャルワーカー協会 会長 木川 幸一

当協会は、昭和32年に道内の医療ソーシャルワーカーにより組織された職能団体です。平成25年に一般社団法人の認可を受けました。北海道における保健医療の分野における社会福祉の増進および公衆衛生の向上を目指し、様々な活動をしています。とりわけ、現在課題となっている「身寄りのいない事例」や「実践評価・キャリアラダー」について、全国の医療ソーシャルワーカーの職能団体で先進的に取り組みをされている県協会の方をお招きし、お話をお伺いいたします。パネルディスカッションでは、日本医療社会福祉協会の早坂由美子会長にもご登壇をいただき、「北海道におけるソーシャルワーク実践で必要なこと」について、議論を深めていきます。

## ミニレクチャー・ワークショップ

－6月20日（土）10：00～11：20

	第1会場	第2会場
10：00～ 10：20	ミニレクチャー① ラダーを用いたソーシャルワーク 実践評価	ミニレクチャー③ 医療的ケアを必要とする子どもたちと そのご家族の暮らし
10：20～ 10：40	ミニレクチャー② “かわる”“わかる”社会福祉士 新カリキュラム	ミニレクチャー④ 医療ソーシャルワーカーの視点で行う 高次脳機能障害の就労支援
10：40～ 11：00	ワークショップ【事前登録制】	ミニレクチャー⑤ 老健&介護医療院との連携をスムーズ にするコツ
11：00～ 11：20		ミニレクチャー⑥ がんと就労

※ミニレクチャー：学会申込者は自由に参加できます。

※ワークショップ：事前登録制です。申込用紙に記載ください。



### ①「ラダーを用いたソーシャルワーク実践評価」(10:00~10:20) 第1会場

発題：中村 美由紀 (札幌麻生脳神経外科病院)

当院 MSW が所属する医療生活相談室は看護部に属しているが、看護部は教育・管理面において BSC による目標管理やラダーによる教育システムを導入している。当部署もその体制下で BSC 管理を行っていたが、ラダーには未着手であった。今まで各 MSW の経験年数における到達度は「客観的指標」がなく、個々の MSW が自覚する課題やスーパービジョンによる気づきにより、それぞれが自身の MSW 像を探ってきた。この度、道協会によりラダーモデルが作成されたことで、ようやく当部署にもラダーが導入され、キャリアに応じた MSW としての到達点を共有し、今後、部門や病院組織にも客観的指標として示せるようになるのではないかと考える。当日は、当院での活用状況や今後の課題について報告する。

(オーガナイザー：松原 俊輔 - 介護老人保健施設リラコート愛全)

### ②「“かわる”“わかる”社会福祉士 新カリキュラム」(10:20~10:40) 第1会場

発題：畑 亮輔 (北星学園大学 社会福祉学部 准教授)

現在、社会福祉士・精神保健福祉士のカリキュラム改定が行われており、2021 年度から新カリキュラムのもとで社会福祉士・精神保健福祉士の養成が始められる予定となっています。本講演では、まず社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムの概要について確認します。その上で、新カリキュラムにおいても重要な変更点といえる社会福祉士の実習(従来の「相談援助実習：180 時間」から「ソーシャルワーク実習：240 時間」への変更)についてどのような構成となっており、実際にどのような実施が想定されるのかを整理し、今後のソーシャルワーカー養成をより発展的に展開していくために求められる養成校と実践現場との関係性について検討します。

(オーガナイザー：横田 法律 - 西岡病院)

### ③「医療的ケアを必要とする子どもたちとそこそご家族の暮らし」(10:00~10:20) 第2会場

発題：高波 千代子 (医療法人稲生会)

医療法人稲生会は、人工呼吸器のように高度な医療を日常的に必要とする子どもたちの支援に専門特化した法人です。その子やきょうだいの成長をご両親とともに見守る存在として、一人ひとりの発達を基調に医療・福祉・保育・教育の視点から取り組みを展開してきました。制度が未整備な領域であるからこそ、ふらっと遊びに来ていただける食堂の運営やきょうだいのためのイベントなどのインフォーマルな関わりも含め、支援する側・される側の境界を超えて、ともにより良い社会を築くパートナーとなる。儚い命という厳しい宣告を受けながらこの世に生を受け、力強く暮らし続ける子どもたちが提供してくれる社会のつながりの尊さを日々実感しています。

(オーガナイザー：岡崎 史典 - 社会医療法人 恵和会 札幌市南区第1地域包括支援センター)

### ④「医療ソーシャルワーカーの視点で行う高次脳機能障害の就労支援」(10:20~10:40) 第2会場

発題：玉川 侑那 (北海道大学病院)

突然の事故や予期せぬ疾病により、忘れやすい、ミスが多い、些細な事で怒りやすい、など、様々な症状が出現し、受傷(発病)後、社会生活に支障をきたす事が多い高次脳機能障害。これらの症状は周囲から理解が得られにくいいため、社会的役割や自信、意欲を喪失しやすく、適切な支援が必要とされています。そのような背景を抱えたクライアントに対して就労支援の観点から、医療ソーシャルワーカーとしてどのような点に配慮し、関わっているか、日頃実践している支援や就労に関する制度・サービスについてお話しさせていただきます。

(オーガナイザー：保科 里香 - 札幌南整形外科病院)



## ⑤「老健&介護医療院との連携をスムーズにするコツ」(10:40~11:00) 第2会場

発題：藤井 謙一 (しんえいの社)

超強化型へ変貌を遂げる老健と、介護療養型老健から転換が進む介護医療院。医療と福祉の機能を併せ持つ2つの介護保険施設の最新動向をお伝えします。

第一線で働く老健・医療院 SW が、医療機関の入退院支援におけるコツと具体的アクションを徹底解説します。介護老人保健施設は、在宅支援・在宅復帰のための地域拠点となり、リハビリテーションを提供し、機能維持・回復の役割を担う施設であることがより強くなってきています。

介護医療院は、「医療」「介護」「住まい」の3機能を併せ持つ新たな介護保険施設として創設されました。介護医療院の機能・役割を整理し、互いの強みを活かした連携についてお伝えします。

(オーガナイザー：荒木 耕一郎 - JCHO 北海道病院附属介護老人保健施設)

## ⑥「がんと就労支援」(11:00~11:20) 第2会場

発題：高泉 一生 (札幌北楡病院)

当院では、血液がん、消化器がん、腎・泌尿器がん等の方々が入院及び通院されている。所属部署の医療連携室において、MSW および移植コーディネーターはその方々の就労に関する相談をお受けすることがある。これまでお受けした相談について整理を試みると、相談内容は、①がん発病のライフステージ②がんの部位、病状の程度③治療方針、治療状況④パーソナリティ⑤就労に対する価値観⑥職場や親近者との関係性⑦経済状況によって異なると推察される。今回は当院での取り組みについて報告させていただく。就労支援、両立支援が重要なことは言うまでもないが、就労できないが故に社会における自分の居場所がないと感じてしまわぬように支援を考えることについても共有させていただく時間となれば幸いである。

(オーガナイザー：岡崎 史典 - 社会医療法人 恵和会 札幌市南区第1地域包括支援センター)

## ワークショップ：外来患者のソーシャルワーク支援 (10:40~11:20) 第1会場

企画者：佐藤 美耶 (仁楡会病院)、川端 毅 (北海道循環器病院)、松尾 昂 (旭川医科大学病院)、高橋 奏絵 (札幌しらかば台病院)

単独高齢者世帯の増加に伴い、薬が飲めていない・適切な診療科を受診出来ていない等、課題を抱えた外来患者が増えています。その中でソーシャルワーカーは何が出来るか、何をすべきか、院内連携の実践事例も踏まえ、ワークショップ形式で理解を深める機会といたく、企画しました。

本企画は、事前申込制とさせていただきます。



**●第1会場**

【座長】 山村 哲(なるかわ病院 医療相談室 主任)  
/ 第64回北海道医療ソーシャルワーク学会函館大会 学会長

**1-1**

【演題名】慢性期医療機関における医療的ケア児への支援

【発表者】鹿野 なつみ(定山溪病院)

【共同研究者】塚本 晃平 / 逢坂 まや / 佐々木 恵 / 佐藤 舜 / 佐藤 洋

【発表内容】医学の進歩に伴い、この10年で医療的ケア児が2倍以上に増加し、多くの医療的ケア児が地域で生活している。医療的ケア児の在宅支援に慢性期医療機関が担う役割について定山溪病院が対応した医療的ケア児の入院と医療的ケア児の家族や支援者へのインタビュー調査を実施。その結果、現在の社会福祉制度では医療的ケア児の支援が十分ではなく、医療の支援が必要と考えられる。また当院入院歴のある医療的ケア児の家族からは在宅生活支援を継続する上で福祉制度上の単位入所は緊急時の対応が困難であり何かあれば相談できる定山溪病院の必要性を感じている。一方、慢性期医療機関で小児医療を実施する困難も多く、定山溪病院が今まで実施してきた経緯を伝える事で医療的ケア児支援の幅が広がるような取り組みが必要と考える。

**1-2**

【演題名】在宅療養支援診療所のMSWとしての実践(独居クライアントの在宅復帰事例)

【発表者】内村 直広(さくら内科クリニック)

【発表内容】急性期病院MSWから、帰宅願望が強いクライアントの訪問診療利用及び、施設転居検討の初回相談。クライアントと家族は元の独居生活に戻ることが希望。医療機関はADL低下や認知機能低下があり、独居生活が困難と予想。介護保険は未申請であった。在宅療養支援診療所のMSWとして自宅もしくは施設転居での訪問診療の利用調整と平行して、急性期病院MSWと連携し、帰宅した場合の近隣の介護サービス(居宅介護支援事業所、定期巡回随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型介護等)と希望地区の施設情報提供、カンファレンス開催。他院の地域包括ケア病棟に転院し、リハビリ後に自宅退院を検討する方向性とする。入院中にせん妄等も見られるようになったためカンファレンスを再開、自宅へ在宅復帰。急性期入院中から関わられたことにより迅速な連携が行えた為、希望どおりの在宅復帰ができた事例。退院後は入院時に見られたせん妄等は改善し、現状では穏やかな生活を継続できている。

**1-3**

【演題名】尿路変更術後の患者における在宅生活の困難性 ~影響する要因とソーシャルワーク支援の検討~

【発表者】佐藤 美耶(仁楡会病院)

【発表内容】当院は泌尿器科を標榜する医療機関であり、膀胱瘻、腎瘻、尿管皮膚瘻、回腸導管といった尿路変更術後の患者に対してソーシャルワーク介入することがある。術後は管理が必要であり、医療・看護・福祉が連携して在宅生活を支援する必要がある。排尿管理の要因以外で在宅生活が困難になった場合、地域にある社会資源を活用するが、非常に限られているのが現状である。当院では入院で受け入れることで、地域の患者にとって療養環境の提供といった役割を担ってきた。こういった患者が抱える課題を明らかにし、どのようにチームアプローチをしていけば良いか、どう地域へ働きかけていけばいいのかを検討する。



#### 1-4

【演題名】急性期病院における短期訪問看護室りんくへの支援の在り方とSW業務についての一考察

【発表者】蝦名 恵(手稲溪仁会病院)

【共同研究者】御家瀬 真由(手稲溪仁会病院 地域療養支援看護師)

【発表内容】当院では2019年6月に短期訪問看護室りんく(以下りんく)を開設した。

りんくでは『心に寄り添い、安心を地域につなぐ』をテーマに、退院直後から1ヶ月程度の在宅亜急性期を担う訪問看護室であり、在宅療養へ円滑に意向できるよう支援に取り組んでいる。急性期病院においてりんくが介入することで早期の情報共有や意思決定支援および療養上の問題への支援継続を行うことができるようになった。

そのため早期の退院支援はもちろん、訪問Nsとの協働によりMSWとしてより患者の地域生活をイメージして退院支援を行えるようになった。また通常の在宅調整のプロセスと比較して支援経過の短縮化にもなったことから、その他の患者に対して十分な支援を行うための時間確保にも繋がっているのではないかと考える。本研究ではMSWの視点から見たりんくにおける支援の在り方やSW業務への効果や影響について検証していきたい。

#### 1-5

【演題名】小児高次脳機能障害の地域社会におけるソーシャルワーク実践の一考察

～子どもの権利擁護とレジリエンスの視点から～

【発表者】玉川 侑那(北海道大学病院 リハビリテーション部)

【発表内容】治療と就労の両立支援がすすめられている中、小児の領域では就学支援との両立が課題とされている。

小児疾患の一つでもある、小児がんの5年生存率は現在8割を超えているが、確定診断に時間を要する事や、治療後も晩期合併症等により家庭や学校生活において失敗や喪失を繰り返し経験する。結果子どもの権利が保障されにくく、本人、家族は傷つきパワーレスな状態に陥りやすい。学校を含めた社会復帰先では適切な支援が必要とされるが、地域内での疾病・障害理解は十分とは言えず全国的にも課題とされている。

今回、小児がん(脳腫瘍)と高次脳機能障害を抱えながらも地域社会の中で課題と向き合い自己実現を目指していったクライアントと家族のケースを担当。実践内容に対して子どもの権利擁護と、児童や看護の領域で主に使われている、レジリエンス(Resilience=困難を乗り越える個人の力)概念の視点で分析し、報告する。

#### 1-6

【演題名】函館中央病院 院内児童虐待防止委員会(child protection team)～現状と今後について～

【発表者】岡田 吉広(函館中央病院)

【発表内容】当院は2008年にNICU9床・GCU18床を含む総合母子周産期センターの指定を受け、毎年約700件の分娩を取り扱っている。その様な環境下、2010年8月より院内児童虐待防止委員会(child protection team 以下CPT)を発足して活動している。近年特定妊婦が法文化されるなど、育児困難さも多様となり虐待リスクを抱えている家庭も少なくない。2019年7月27～28日第11回日本子ども虐待医学会学術集会INはこだてが開催され、全国より医師・看護師・MSW・リハビリ・児相・警察・検察ら568名参加があった。終了後に道内数カ所のMSWより当院のCPTについて、どのように運営しているかなどの問い合わせいただき、各機関それぞれが手探りでやっていることを知ることが出来た。そこで当院での実情・今後の展開についてお伝えすることにより、更なるネットワークの構築や新しい気づきに繋がりたいと考える。





## ●第2会場

【座長】 菊地 攻(定山溪病院 経営管理部 部長)

### 2-1

【演題名】理論で検証するソーシャルワーク実践～複合的ニーズを抱えた事例から～

【発表者】保科 里香(札幌南整形外科病院)

【発表内容】ソーシャルワークは価値・倫理・知識・技術・態度に基づいた専門職であり、専門的実践である。卒前学習や協会が主催する研修等での学びからソーシャルワークには多くの実践モデル、実践アプローチなどが存在し、活用されているという事を理解した。しかしながら自分の実践事例に理論を当てはめて意識的に振り返った経験がなく、「結果としては良かった。」「こうすれば良かった。」等感覚的に省察するに終始していたと感じる。今回、医療ソーシャルワーカーキャリアラダー・モデル ハンドブック(5)理論および文献を参照し、事例検討を実施した。所属機関におけるソーシャルワーク実践が、アセスメントにおけるモデルや視座、介入におけるアプローチなど、同じ理論という括りの中でも、ケース展開のどの段階で、どのアプローチを活用しているか検証し考察する。倫理的配慮として個人が特定されないよう配慮する。また、所属長である病院長の許可を得ている。

### 2-2

【演題名】 新人と先輩医療ソーシャルワーカーによるクライアントの生活イメージづくりの差

【発表者名】長岐 若菜(手稲溪仁会病院)

【共同研究者】村瀬 晴香(イムス札幌内科リハビリテーション病院) / 政田 千尋(札幌緑誠病院)

角田 梨奈(イムス札幌消化器中央総合病院)

【発表内容】当研究グループではクライアント(以下、CL)のリアルニーズを引き出すにはどのような関わり方をすればよいのかが共通した悩みとして挙がり、「MSWの経験年数による、リアルニーズを確認するためのスキル活用の比較」として各病院の先輩MSWにアンケート調査を実施。その結果、経験年数を積むことで面談スキル活用の差だけでなく、今後の生活のイメージをし、必要な情報収集を面談の中で繰り返し行うことでCLの望む今後の生活を確認することが可能だと分かった。

グループでは「今後のCLの生活をイメージしながら面談を繰り返す」点に着目し、議論を重ねる中でなぜこの部分で新人と先輩で差が生まれるのか、新たに疑問が発生した。

以上のことから、本研究ではCLの望む今後の生活をイメージすることにおいて工夫している点は経験年数によって違いがあるのか、北海道MSW協会中央E支部のMSWへのアンケート調査を通して明らかにする。

### 2-3

【演題名】重症血友病A患者に対する第八因子製剤定期補充療法における患者自己注射確立への道程

【発表者】田澤 愛子(八雲総合病院)

【共同研究者】吉田 雅喜(八雲総合病院 小児科医) / 戸田 理沙(八雲総合病院 看護部)

【発表内容】重症血友病に対する定期補充療法の導入で関節内出血などの頻度が下がり、患者QOL低下を防ぐことが可能となり、本療法は世界的にgolden standardとなっている。しかし、患者の治療アドヒアランスの問題、さらにその先の患者自己注射の確立など解決しなければならない問題が山積する。今回、担当医・看護師・MSWのチームとして保護者および患者のアドヒアランスの問題を解決し、自己注射をスムーズに導入できたケースがあり、そのケースに考察を加え実践報告を行いたい。



## 2-4

【演題名】回復期リハビリテーション病棟入院中におけるソーシャルワーカーが担う就労支援

【発表者】花田 真衣(札幌溪仁会リハビリテーション病院)

【共同研究者】成田 亘 / 畠山 祐志 / 栗原 和也 / 亘理 春香 / 菅原 哲郎

【発表内容】当院は全床回復期リハビリテーション病棟で、脳血管疾患患者が約8割にのぼる。患者の中には若年で発症前まで就労していた稼働年齢層も多い。回復期リハビリテーション病棟入院中におけるソーシャルワーカーが担う就労支援について、データ分析を行い、またそれを元にソーシャルワーク就労支援のあり方について考察する。

## 2-5

【演題名】道内医療機関における虐待対応の問題点と考察

【発表者】土方 紗季(日鋼記念病院)

【共同研究者】山本 亮 / 堅田 有紀 / 菊池 洋平 / 志摩 瑞基

【発表内容】当院では、第62回学会自主企画にて『日胆地域における虐待対応の現状と、課題』をまとめた。調査結果から、虐待対応に関しソーシャルワーカーが「中心的役割を担っている」、「窓口として院内外から選択されている」、「委員会、窓口の設置・マニュアル等の策定を進めている」、「関係機関との連携体制が確立している」という回答が7割程度得られ、期待の高さや実践の進捗を確認できた。

一方、「院内外連携体制の未整備」、「仲介機能が果たされない」という状況が依然として存在し、当地域に限った課題ではないことが推察された。また、日々の実践現場では関係機関との間に「認識の違い」や「連携のしにくさ」を感じることも多いため、これらの要因を探り一歩前に進む取り組みの必要性を認識した。

調査対象を拡大し、全道的な体制整備の状況や現場で抱える問題点を明確にしたい。関係機関との法的解釈の相違、対応困難な要素、課題を整理し、考察する。

## 2-6

【演題名】キャリアラダー・モデル実践報告

【発表者】小倉 睦美(北海道消化器科病院)

【発表内容】2019年にキャリアラダー・モデルが配布され、自己評価を行った。MSWとしてミクロ実践に追われメゾマクロを意識できていないことをはじめ、理論学習、自組織変革への意識など、不足していることが可視化された。それにより、研修もステップアップ、キャリアアップの視点で参加できるようになり学びもメゾマクロを意識した部分まで深まった。

スーパービジョンも職場環境上できないと決めつけ取り組んでいなかったが、地域の先輩SWIに相談することをそれに準じたものとして意識し記録する、未就学の子がいても学習機会を得るため協会に働きかけるなど新たな取り組みにもつながった。ラダー実践と評価を部署で行うにあたり、研修での学びも生かして共通のツールを作成し、取り組みについて部署内のルール作りも始めている。

以上のようなラダーの実践、取り組みについて報告するとともに、ラダーや協会への期待も伝え、ラダー実践推進への寄与も期待する。



## ランチセミナー

－6月20日（土）11：40～12：30

（昼食／お茶付き）共催：帝人ファーマ株式会社

「ICTを用いた在宅医療における多職種連携」



【講師】 三木 敏嗣 / みきファミリークリニック院長

東邦大学医学部卒業、東邦大学第1外科入局、東邦大学医療センター大森病院総合診療・急病科、札幌厚生病院 外科、東栄病院 内科、2008年12月 みきファミリークリニック開院

みきファミリークリニック：<http://www.mikifamilyclinic.com/>

【座長】 岡村 紀宏（西岡病院）

## 懇親会

－6月20日（土）19：00～20：30

事前申し込み制（会費6,000円／立食）の懇親会を行います。

お楽しみ抽選会などの企画もご用意しておりますので、ぜひご参加ください。

（18：30～19：00 ウェルカムドリンクもご用意しております）

## 託児

当学会では、ごう在宅保育園（札幌市中央区）のご協力にて、学会中の託児サービス（有料：保育1名に対し1時間1,500円を予定）を行います。ご希望の方は5月1日（金）まで協会事務所までご連絡ください。

【お問合せ先】 一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 事務所

TEL / 011-563-7229（平日火曜～金曜 9-13時）

Mail / [mswjimusyo@hmsw.info](mailto:mswjimusyo@hmsw.info)

【託児協力】 ごう在宅保育園 <http://go-at-home-hoiku.com/>





## 第63回北海道医療ソーシャルワーク学会

---

本紙で使用している札幌市豊平区イメージキャラクター「こりん・めーたん」、札幌市南区健康延伸PRキャラクター「なんだべあ」、さっぽろ羊ヶ丘展望台写真の使用については全て許可申請をしております。

---

### 【お問合せ】

第63回北海道医療ソーシャルワーク学会

実行委員会／札幌しらかば台病院 医療ソーシャルワーカー 高橋 奏絵

札幌市豊平区月寒東2条18丁目7-26 直通 TEL (011) 852-8864 / 直通 FAX (011) 851-6051